



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

東京オリンピック・パラリンピックへの想い

校長 永浜 裕之

私は奈良県を数年に一度は訪れ、西暦592年に始まった飛鳥時代やその後の奈良時代を忍びます。その奈良で、約1,300年前に書かれた文書によると、当時、天然痘が大流行し、多くの人命が奪われ、疫病の流行を収束させるために建立されたのが「奈良の大仏」です。古来、日本人は、祀るなどという形で、脅威の原因と共存しようとする精神性を持ち続けてきたように感じます。

新型コロナウイルスという目に見えない脅威に世界が覆われてから1年以上が過ぎ、その間、私たちは命を守るために触れ合いを避け、不安を抑えながら生活してきました。「いつまで我慢すればよい」と明確に分かっていれば、少しは気が楽になるのかもしれませんが、コロナ禍が収束する時期は明確になっていません。この新たな日常は、「人を信じ、人とつながる」という、人間の力の源を、気付かぬうちに枯らしてしまいつつあるようにも感じます。

コロナ禍が世界を席卷して以来、当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかったという現実を知る中で、私たちは生活しています。人との接触を避け、集（つど）うことで得ていた力が奪われていく。集えば感染のリスクが高まり、集わなければ孤独を感じる。トレードオフの関係に悩む中、答えを探す知恵が必要です。

さて、東京オリンピック開会まで半年を切り、様々なメディアを通じて「何故、コロナ禍の時に東京オリンピック・パラリンピックを開催しなければいけないのか？」という声が報道されています。感染拡大が止まらず、国境も封鎖される中で不安を感じるのは無理のないことです。

私は、オリンピックの延期が決まった昨年、1年後にオリンピックが開催できたら、たとえ、限られた人数だとしても、**東京に人が集うだけで、どれだけ感動的な出来事になるのだろう。華やかな演出はできなくても、シンプルに世界中の人が集まるだけで、どれだけ力を人々に与えてくれるのだろう**と思いました。

人は一人では弱い生き物ですが、人とのつながりが何かを作り上げる力となります。どうすれば封鎖された国境を開き、世界中の人々が再び集えるのか。安全・安心が担保されることが前提ですが、スポーツは人々が集う光になれると信じています。そして、その象徴が、東京オリンピック・パラリンピックなのだと思います。

スポーツには、勝敗や記録だけでは語りつくせない何かがあると感じます。練習を重ね、鍛錬を積んできた人たちが見せる情熱。その姿に私たちも前向きに生きていこうと考える何かがある。アスリートの姿が、生き方が、私たちに希望を与えてくれ、人を感動させると考えます。

人間は野生動物のように、「食物を食べることができ、種の保存ができればよし」とする存在ではありません。アメリカの心理学者「アブラハム・マズロー」が唱えているように、「人間は自己実現に向かって、絶えず成長する生きもの」だと考えます。現在の世界の状況は、「マズローの欲求5段階説」で定義されている第1階層の「生理的欲求」は何とか満たされているものの、低次階層である第2階層の「安全欲求」や、第3階層の「社会的欲求」さえ脅かされている異常な状態です。

人が人らしく生きるためには、様々な文化的な営みが必要です。**英知を絞り、安全・安心な環境をつくる。そして、世界中のアスリートが東京に集い、走り、競い合う。ただそれだけで、どれほど幸せに感じるのか。**

オリンピックでは、古代オリンピックが行われていたギリシャのオリンピアにあるヘーラー神殿跡で、太陽から採火した聖火（Olympic Flame）をリレーし、国立競技場に運びます。聖火に「聖なる」という訳を充てるのは日本だけです。日本人は聖火を、神聖な祈りともいえるような感覚を込めて見てきたのだと思います。生きとし生けるもの、太陽や風、木々や山、この世にいない人の魂までも、生きている人々と繋がっていると捉える日本人の感性を感じます。

オリンピックを見た人が、「**生まれてきたこと、ただそのことさえが、素晴らしいこと**」と気付くとともに、「**何か自分にできることがあるのでは？**」とか、「**誰かに優しくできるのでは？**」とか、そういった思いを持ってくれる大会になれば良いと考えます。

生徒のみなさんは**スマホを学習に活用**していますか？うまく活用して効率よく学びを深めましょう。新宿山吹だよりの第10号でもお知らせしましたが、都立学校スマートスクール構想の一環として、新宿山吹高校では都立高校の中でもいち早く、**全教室に無線LANのアクセスポイントが設置**されました。接続用の個別IDとパスワードが配布されると、**みなさんのスマホでもWi-Fi接続ができる**ようになります。今までは通信料を気にして活用ができていなかったかもしれませんが、これからは**学校の通信回線を使って授業中に活用する機会が増**えます。ここでは活用例として、生物基礎・生物の授業で行っているICT機器活用についてお伝えします。

解説動画の視聴(生徒個別)

学習内容の**概要をイメージしやすいWEB学習サイト**を、授業プリントで紹介しています。URLとそのQRコードを載せておき、スマホのカメラで読み込むと目的の動画に直接アクセスできます。

自宅での復習などにも活用できます。

例



WEB玉塾(教室一覧)



京都大学 iPS細胞研究所(紹介動画)



スマホでの表示画面

解説動画の活用(授業中一括)

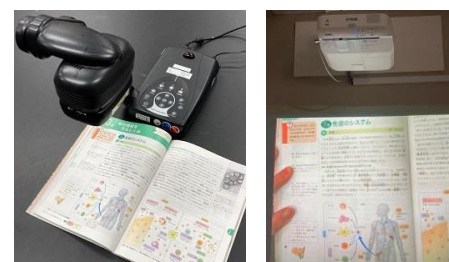
解説動画を授業中の教材として用いて、ただ流すだけでなく、要所で止めながら授業に合わせた解説を追加しています。教室の**プロジェクターには電子黒板機能もある**ので、**電子ペンを使って書き込む**ことで、丸で囲んだり、アンダーラインを引くなど強調したり、解説文を書き加えることもできるので、授業に合わせた使い方もできます。

解説動画は授業の進捗と完全に一致するわけではありません。しかし、**教科書や授業者の説明とは違う切り口で説明**されるので、理解を深めるには大変効果的に活用できます。自作の教材では表現が難しい、動きがある場合等の説明も動画があるとわかりやすくなります。



教科書や資料集などの提示・書き込み解説

プロジェクターを使うのは動画視聴だけではなく、教科書や資料集を見ながらの**授業中に、該当のページを写真カメラで撮影してプロジェクターで映しておく**だけで、「今、何をやっているのか」が一目で確認できるようになります。



ご紹介したように、ICT機器の活用によって、教科書・資料集・プリントだけの「静」と板書の「動」だけだった授業が、より**理解しやすい教材を扱**えるようになります。これ以外にも、アンケート機能や課題配信など活用方法は広がります。みなさんも**スマホなどを積極的に活用して学習**を深めてください。

定時制課程 学校行事予定
 2月16日(火)、17日(水) 期末考査
 18日(木) 入学者選抜準備
 1~4限授業 13:30生徒完全下校
 19日(金) 入学者選抜(2学年相当以上)
 生徒登校禁止
 20日(土) 校内立入禁止
 21日(日) 入学者選抜(1学年相当) 生徒登校禁止
 22日(月) 入学者選抜採点 生徒登校禁止
 23日(火) 天皇誕生日
 24日(水) 入学者選抜採点 生徒登校禁止
 25日(木)、26日(金)、3月1日(月) 期末考査

通信制課程 学校行事予定
 2月13日(土) 定期考査予備日
 2月19日(金) 定時制入学者選抜
 ~24日(水) 生徒登校禁止